



県内 景気動向

平成21年9月7日
日本銀行水戸事務所

概況

県内景気は、生産、輸出、公共投資の下支えにより、下げ止まっている。

すなわち、生産は持ち直している。輸出も増加が続いているが、回復のテンポは緩やかである。この間、公共投資は各種経済対策の執行から、多少の振れを伴いつつも、増加基調にある。

一方、設備投資、住宅投資とも大幅な減少が続いている。個人消費は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、雇用・所得環境が厳しさを増す中、引き続き弱めの動きとなっている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、経済全体の需給が緩和した状態が続く中、前年の石油製品価格高騰の反動などから、前年比マイナス幅が拡大している。

金融面をみると、預金は小幅の増加、貸出は高めの伸びが続いている。

企業の資金繰りや金融機関の貸出態度については、中小企業を中心になお厳しいとする先が多く、このところ大型倒産も発生している。

実体経済

◎個人消費

個人消費は、各種対策の効果や商品価格の低下もあって、一部に持ち直しの動きがみられるものの、全体としては引き続き弱めの動きとなっている。

7月の大型小売店売上高は、家計の節約志向の強まりなどから、衣料品や高額商品（身の回り品等）が不振であったため、前年を大きく下回った。また、8月は天候不順がさらに影響を与えているとみられる。

8月の乗用車新車登録・販売台数は、減税や補助金の効果などから08年7月以来1年1か月振りに前年を上回った。特に、普通・小型車については、2か月連続して前年を上回った。

一方、家電販売額は、5月15日からのエコポイント制度導入以降、エアコンはこのところの天候不順から不調だったものの、薄型テレビ（地上デジタル放送対応）や冷蔵庫などが好調を持続しており、全体としては堅調に推移している。

◎公共・住宅投資

7月の公共工事請負金額は、県の発注集中に加え、市町村の大型工事発注などから6月同様前年を大きく上回った。8月は国の発注減少から前年を幾分下回っている。

7月の新設住宅着工戸数は、分譲住宅を中心に前年を大幅に下回った。

◎生産

生産は、輸送用機械（自動車関連部品）、電子部品・デバイス、一般機械などを中心に持ち直している。鉱工業生産指数は5月、6月と2か月連続して前月を上回った。

◎雇用・所得環境

雇用・所得環境は、労働需給の大幅な緩和が続いており、厳しさを増している。7月の有効求人倍率は前月比低下し、既往最低を更新した。また、一人当たり賃金も弱含んで推移している。

物 価

6月の消費者物価（除く生鮮食品）は、経済全体の需給が緩和した状態が続く中、前年における石油製品価格高騰の反動などから、前年比マイナス幅が拡大した。

金 融

◎預金・貸出

県内金融機関の7月末預金残高は、13兆8,106億円と、都市銀行・信託銀行を主体に前年比1.8%の増加となった。また、7月末貸出残高は、7兆5,090億円と、地方銀行を主体に前年比2.9%の増加となった。

◎貸出約定平均金利

県内金融機関の7月末貸出約定平均金利（ストックベース）は、2.428%（うち短期2.518%、長期2.366%）と、前月比低下した。

◎企業金融

企業の資金繰りや金融機関の貸出態度については、中小企業を中心になお厳しいとする先が多い。

企業倒産

8月の企業倒産（負債総額10百万円以上）をみると、前月に比べ件数は減少したものの、負債金額は大型倒産の発生から大幅に増加した。

茨城県主要経済指標（前年比、%）

	20年度	21/6	21/7	21/8
大型小売店売上高	▲ 2.4	▲ 10.0	▲ 11.4	-
乗用車新車登録台数	▲ 8.9	▲ 7.7	▲ 0.4	1.0
〔うち軽〕	0.9	▲ 12.0	▲ 5.1	▲ 9.9
公共工事請負金額	0.4	16.5	27.7	▲ 3.7
新設住宅着工戸数	▲ 7.2	▲ 11.5	▲ 36.0	-
〔持家〕	0.7	▲ 12.5	▲ 13.5	-
産業用電力消費量 〔大口電力〕	▲ 7.5	▲ 19.8	▲ 16.4	-
鉱工業指数〔生産〕	▲ 13.2	▲ 26.2	-	-
鉱工業指数〔出荷〕	▲ 13.4	▲ 24.6	-	-
鉱工業指数〔在庫〕	7.0	2.0	-	-
有効求人倍率（倍）	0.76	0.40	0.38	-
倒産件数（件）	226	26	20	13

※ 鉱工業指数、有効求人倍率は季節調整済
倒産件数の対象は負債総額1,000万円以上